

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 浅川 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

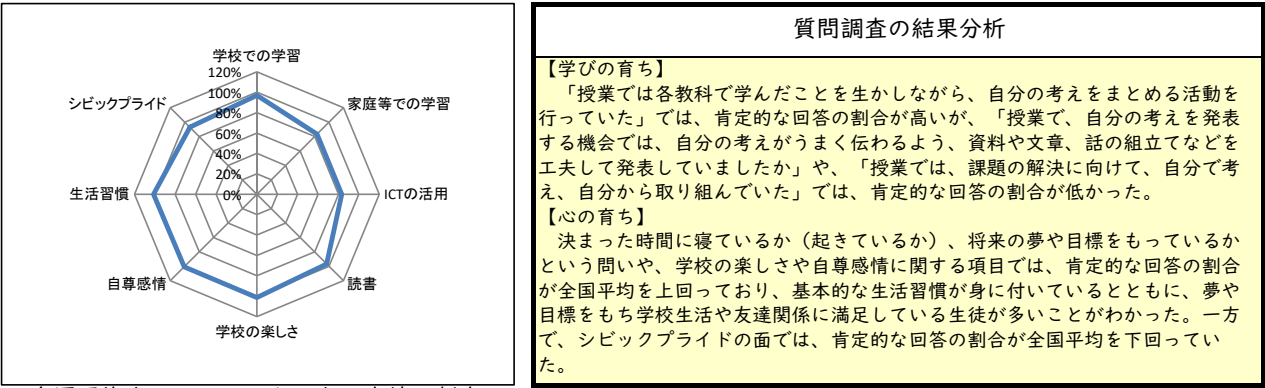
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」における正答率が低い傾向が見られたが、自分の考えを書く問題についての正答率の割合は高かった。また、国語の勉強が好き、得意であると回答した割合が全国平均よりも高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書く問題	
	努力が必要な問題	言葉の意味や、文脈に沿うように正しい語彙や漢字を選ぶ問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	数と式における素数や倍数などの知識を問う問題において、正答率が低い傾向が見られた。一方で記述式の思考問題については、正答率の割合が高かった。また、授業で考えを説明する活動をよく行っていると回答した割合が全国平均よりも高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	数学的な表現を用いて自分の考えを説明する問題	
	努力が必要な問題	素数や相対度数、確率などの意味を問う問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	思考・判断・表現を問う問題において、正答率が低い傾向が見られるとともに、記述式の問題での無回答率の割合が高かった。ただ、授業で観察や実験をよく行っている、仮説を基に観察や実験の計画を立てていると回答した割合が全国平均よりも高かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	生命・地球を柱とする問題の概念的な知識を問う選択式の問題	
	努力が必要な問題	自ら課題を設定したり、課題に対して探求した過程を振り返る記述式の問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

学力調査では、国語科、理科において、全国平均を下回った。特に、思考・判断・表現の記述式の問題で無回答の割合が高かった。授業ではICTを効果的に活用し、他者とかかわりながら自分の考えを深めていく協同的な学習活動を設定するとともに、基礎・基本の知識の定着を進める必要がある。

② 家庭生活習慣等に関する取組

週末課題の見直しやAI教材の導入の検討など、家庭学習の習慣を身に付けさせる取り組みを行うとともに、生徒が自分の将来を考え、自主的に家庭学習に取り組めるように、進路学習やキャリア教育を充実させるようにする。